

坂城町埋蔵文化財調査報告書第18集

# 町内遺跡発掘調査報告書 2000

—平成12年度試掘調査報告書—

2001. 3

坂城町教育委員会

# 町内遺跡発掘調査報告書 2000

—平成12年度試掘調査報告書—

2001. 3

坂城町教育委員会

## 例 言

- 1 本書は長野県埴科郡坂城町における開発事業に伴う、平成12年度の町内遺跡の試掘調査報告書である。
- 2 調査の費用は、国庫及び県費の補助を得て町費で対応した。
- 3 調査の体制  
調査指導者 塩入 秀敏（上田女子短期大学教授、日本考古学協会会員）  
担 当 者 助川 朋広（坂城町教育委員会学芸員）  
齋藤 達也（坂城町教育委員会学芸員）  
協 力 者 朝倉 妙子、小宮山 秀子、坂巻 ケン子、佐藤 昭子、塚田 さゆり、萩野 れい子  
（以上、町臨時職員）  
伊藤 篤、滝沢 袈裟男、竹鼻 茂、柳沢 勲夫（以上、更埴地域シルバー人材センター）
- 4 事務局の構成  
教 育 長 大橋 幸文  
教 育 次 長 宮原 健一（生涯学習課長兼務）  
文化財係長 池田 弥惣  
文化財係 助川 朋広（前出）、齋藤 達也（前出）  
朝倉 妙子、天田 澄子、小宮山 秀子、坂巻 ケン子、佐藤 昭子、塚田 さゆり、  
萩野 れい子（以上、町臨時職員）
- 5 本書の執筆・編集は助川・齋藤が行った。
- 6 本書及び調査に関する資料は、坂城町教育委員会の責任下において保管されている。

## 凡 例

- 1 本文中の面積は、開発対象面積と調査面積を記載し、（ ）内に調査面積を記載した。
- 2 挿図の縮尺は、各図ごとに縮尺を示した。

## 目 次

例言

凡例

第Ⅰ章 坂城町の遺跡の立地と環境 .....	1
第1節 地理的環境 .....	1
第2節 歴史的環境 .....	1
第Ⅱ章 調査の結果 .....	6
1 北川原遺跡Ⅱ .....	6
2 込山C遺跡 .....	8
3 島遺跡Ⅲ .....	10
4 田町遺跡群4 .....	12
5 和平A・C遺跡 .....	14
6 豊饒堂遺跡1 .....	18
7 四ツ屋遺跡群2 .....	20
8 四ツ屋遺跡群3 .....	22
9 西教寺跡地伝承地 .....	24
10 込山C遺跡Ⅱ .....	26

報告書抄録

## 第I章 坂城町の遺跡の立地と環境

### 第1節 自然的環境

坂城町は北信地方と東信地方の接合点にあたり、善光寺平を構成する更埴地方の最南端に位置する。また、町は貫流する千曲川の氾濫によって形成された氾濫原と、千曲川に流れ込む小河川がつくりだす扇状地によって形成された坂城広谷と呼ばれる幅広い貫通谷に立地している。町の北から東にかけては五里ヶ峰・大峰山・虚空蔵山をはじめとする標高1100～1300m前後の山々が連続し、更埴市・真田町・上田市との市町村界を形成し、西は大林山、三ツ頭山などの標高1000m前後の山々が連続し、上山田町・坂井村・上田市との市町村界となっている。南は千曲川右岸の岩鼻と左岸の半遇の岩鼻が狭隘な地形を形成し、上田盆地と隔てられている。このような地形から、古来よりこの地域は千曲川流域の要衝として注目されてきた。

この地域の気候は、南北に開けた広谷をなしていることから、季節風の影響を受けやすいため、夏季は南風、冬季は北風が強い。また、盆地状になっていることから寒暖の差が大きい。降水量は少なく、日本で最も雨量の少ない地域の一つとされている。現在では、この気候を生かして、工業が主要な産業となっており、農業では、バラ・ぶどうの栽培が盛んである。

### 第2節 歴史的環境

ここで、坂城町の各時期について代表的な遺跡を挙げつつ、町の歴史的環境について概略的に触れておくこととする。(括弧内の数字は図1における遺跡番号を示す。)

坂城町では保地遺跡(1-3)より採集された後期旧石器時代の土器・石器が町内最古のものとされ、年代的には14,000～15,000年前と考えられている。この石器以外に後期旧石器時代の遺物は確認されていない。

縄文時代の遺構・遺物では早期押型文系の土器が和平A遺跡(36-1)や平沢遺跡(35)で採集されている。また、平成12年度に発掘調査が実施された込山C遺跡(30-3)からも押型文系の土器片が出土しているが、これらは現在整理中である。この他に込山C遺跡では縄文時代前期・中期の土器も確認されている。後期・晩期では、学史的にも有名な保地遺跡が挙げられる。保地遺跡は昭和40年度と平成11年度に発掘調査が実施されている。後者については現在整理中であるが、前者は縄文時代後期後半から晩期後半までの土器・石器群と、後期後半に属するとされる特殊儀礼的遺構の出土が『考古学雑誌』に報告されている(関1966)。縄文時代晩期の遺物では、昭和初期に遮光器土偶の頭部が込山D遺跡(30-4)より採集されており、いくつかの文献に記録は残っているが、遺物は散逸してしまい、現在見ることはできない。

弥生時代では、中期以前の調査例がないため、状況は不明である。後期後半では、平成5年度に実施された塚田遺跡(1-7)の発掘調査で、この時期に属する竪穴住居址36棟をはじめとする遺構と、土器・石器・土製品、及び鉄器などが出土している。

古墳時代では、前期古墳は確認されていないが、中期古墳には仮称東平1号墳・2号墳が挙げられる(註1)。これらは、平成5年度に実施された上信越自動車道建設に伴う発掘調査で、埴輪や土器などの出土が

ら、1号墳は5世紀第2四半期後半、2号墳は5世紀第2四半期前半に位置付けられた(若林1999)。後期古墳では、町内でもいくつかの古墳群の存在が知られているが、中でも代表的なものは村上地区の福沢古墳群小野沢文群に属する御厨社古墳(47-1)である。内部施設に千曲川水系最大の石室を持ち、全長11.2mを測り、勾玉や切子玉、耳環などが出土している。古墳時代後期の集落・祭祀遺跡では、環状に配列された土器群が検出され、全国的にも注目された青木下遺跡(1-8)が代表的である。青木下遺跡は現在整理中である。

奈良時代・平安時代の遺跡では、坂城町大字中之条に位置する中之条遺跡群(8)とその周辺遺跡に多くの調査例があり、この地域における奈良・平安時代の状況が徐々に解明されつつある。具体的には、寺浦遺跡(8-1)、豊饒堂遺跡(20)、上町遺跡(8-2)、東町遺跡(8-3)、宮上遺跡(8-5)、北川原遺跡(8-6)、開畝遺跡(21)で調査が実施され、古墳時代後期後半～平安時代までの集落遺構と遺物が多数出土している。また、平安時代では、生産遺跡として土井ノ入窯跡(32)があり、瓦の生産が行われていたことが分かっている。ここで生産された瓦は、現在の坂城小学校がある場所に8世紀末から9世紀頃に存在していたとされる込山庵寺(54)に用いられたほか、上田市信濃国分寺・国分尼寺、更埴市正法庵寺の補修用の差し瓦として使用されていたことが判明している。

中世に入ると、平安時代後期、寛治8年(嘉保元)(1094)に村上地区に配流されてきた源盛清が後に村上氏として勢力を持つようになり、戦国時代には村上義清が活躍するようになった。義清の頃、村上氏の居館は現在の満泉寺一帯に所在したとされ、その背後にそびえる葛尾山の山頂には、義清が使用した葛尾城跡(44)があるが現存していない。このほか、中世の遺跡では坂城地区の観音平経塚(55)をはじめとする経塚と中之条の開畝製鉄遺跡(53)がある。観音平経塚は昭和54年と平成4年に調査がおこなわれているが、平成4年の調査では、経塚の年代は14世紀第2四半期とし、その周辺の五輪塔群の造営時期は14世紀第2四半期から16世紀前半頃に位置付けられている(若林1999)。開畝製鉄遺跡は、昭和52・53年に坂城町教育委員会によって学術調査が実施され、16世紀頃の製鉄炉址2基が確認されている。この調査は県内初の製鉄遺跡調査として学史上に位置付けられる。

近世、江戸時代に入ると、現在の坂城地区と中之条地区を主体とする坂木村、中之条村には天和2年(1682)に幕府天領が置かれ、以後明治維新まで続いた。この地域を重要視していたことがうかがわれる。陣屋は最初、坂木(61)に置かれたが、明和4年(1767)に焼失し、その後、安永8年(1779)中之条に陣屋(67)が置かれている。

以上、坂城町の歴史について概略した。

註1 周知の御厨川古墳群東平文群1号墳・2号墳とは異なる可能性があるため、仮称とされている。今後、正式な古墳名称の確定が必要である。

参考文献(五十音順・敬称略)

- |          |   |
|----------|---|
| 小平 光一    | 1996『豊饒堂遺跡・上町遺跡・寺浦遺跡・東町遺跡』坂城町教育委員会                                |
| 坂城町教育委員会 | 1978『開畝製鉄遺跡-第1次調査報告』  |
| 坂城町教育委員会 | 1979『開畝製鉄遺跡-第2次調査報告』  |
| 助川 朋広    | 1993『宮上遺跡Ⅱ』坂城町教育委員会   |
|          | 1995『東裏遺跡』坂城町教育委員会  |
|          | 1996『寺浦遺跡Ⅱ』坂城町教育委員会   |
|          | 2000『開畝遺跡Ⅲ』坂城町教育委員会   |
| 関 孝一     | 1966『長野県埴科郡埴地遺跡発掘調査概報』『考古学誌』第51巻第3号                               |
| 森嶋 祐ほか   | 1981『坂城町誌』中巻 歴史編(一)   |
| 溝沢 亮     | 1998『第5節 開畝遺跡』『北陸新幹線埋蔵文化財発掘調査報告書2』(財)長野県埋蔵文化財センター                 |
| 若林 卓     | 1999『第9章 東平古墳群』『第11章 観音平経塚』『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書21』(財)長野県埋蔵文化財センター |





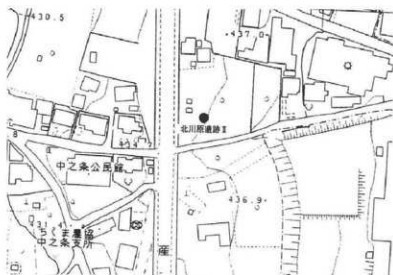
発掘調査位置図(1:25,000)



## 第Ⅱ章 調査の結果

### 1 北川原遺跡Ⅱ

所在地 坂城町大字中之条字  
北川原1030-6  
事業主体 東信医療生活協同組合  
事業名 診療所建設事業  
調査期間 平成12年4月6日～  
平成12年4月8日  
面積 1209㎡ (316㎡)  
担当者 助川 朋広  
齋藤 達也



試掘調査位置図 (1:2500)

### 遺跡の環境と経過

北川原遺跡Ⅱは坂城町大字中之条に所在し、標高434m内外を測る。本遺跡は、御堂川によって形成された扇状地の扇中央部に位置する。また、本遺跡は縄文時代～古代の集落址に位置付けられている中之条遺跡群の一部である。

今回、東信医療生活協同組合により、診療所の建設が計画され、遺跡の破壊が避けられない状況になったことから、遺跡の状況を把握するため、試掘調査が行われることとなった。

本遺跡は当初、中之条遺跡群の一部として位置付けられており、遺跡名がつけられていなかったが、今回の本調査にあたり、字名をとって北川原遺跡と命名した。また、今回の調査地点の西に隣接する地点でも、平成7年度に発掘調査が行われていたので、その地点を北川原遺跡Ⅰとし、今回調査地点を北川原遺跡Ⅱとした。



4号トレンチ完掘状況(東より)

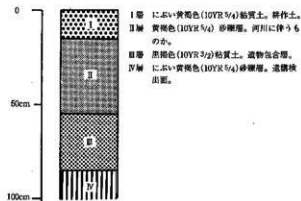


1・2・3号トレンチ遺構検出状況(南より)

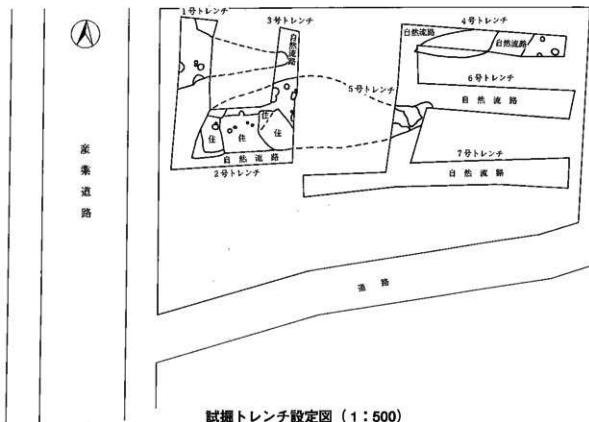
## 調査結果

開発対象地に南北に2本、東西に4本のトレンチを設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、地表下60~100cmで竪穴住居址4棟、掘立柱建物址1棟をはじめ、土坑、ピットなどの遺構と共に、土師器片・須恵器片が検出された。しかし、調査区は自然流路が多くを占め、遺構が浸食による破壊を受けている状況も多く見られた。そのことから、実際には、今回検出された数以上の遺構が調査区内に存在していたと考えられる。また、遺構を破壊している自然流路は、現在調査区の北を流れる御堂川の築堤以前の流路であったと考えられ、いくつかの流路が重複して検出されている。これらの新旧関係は不明であるが、この川が、過去何回も流路を変えていたことを示し、古代の住居址よりも新しいことは重複関係より明らかである。

この結果を受けて、事業主体である東信医療生活協同組合と保護協議を行った結果、建物部分及び今後増築が予定されている部分と浄化槽、スロープ部分についての記録保存を目的とする発掘調査が実施されることとなった。発掘調査は平成12年6月26日から8月8日にかけて実施され、竪穴住居址11棟、掘立柱建物址4棟などの遺構が検出されている。



基本層序模式図



試掘トレンチ設定図 (1:500)

## 2 込みやま 込山C遺跡

所在地	坂城町大字坂城字 込山6199-1他
事業主体	坂城町福祉課
事業名	保育園建設事業
調査期間	平成12年4月17日～ 平成12年4月21日
面積	4066㎡ (367㎡)
担当者	助川 朋広 齋藤 達也



試掘調査位置図 (1:2500)

込山C遺跡は日名沢川によって形成された扇状地上に位置し、標高415m前後を測る。込山C遺跡は込山A～E遺跡からなる込山遺跡群に属している。込山遺跡群には、遮光器土偶の頭部が出土した込山D遺跡や、9世紀初頭頃の寺院とされ、礎石列や布目瓦が出土した込山廃寺などがあり、縄文時代、および古代の遺跡として古くから注目されていた。

今回、坂城町福祉課より坂城保育園の建設事業が計画され、遺跡が破壊される恐れが生じたため、試掘調査を実施して、遺構・遺物の確認を行うこととなった。



1号トレンチ発掘状況(東より)



5号トレンチ発掘状況(北より)

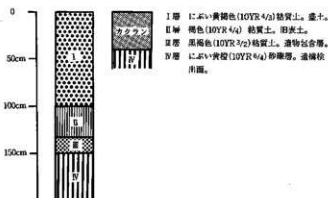
### 調査結果

園舎建設予定地内外の東西方向に3本、南北方向に2本トレンチを設定して遺構の確認を行った。その結果、建設予定地はもともと旧園舎があった場所のため、遺構が破壊されている部分も確認されたが、地表下約40～150cmで遺構が検出されることが判明した。遺構は、縄文時代中期頃と思われる敷石状遺構、縄文時代のものと思われる集石遺構、古代の堅穴住居址、土坑址、ピットが検出された。遺物では縄文時代

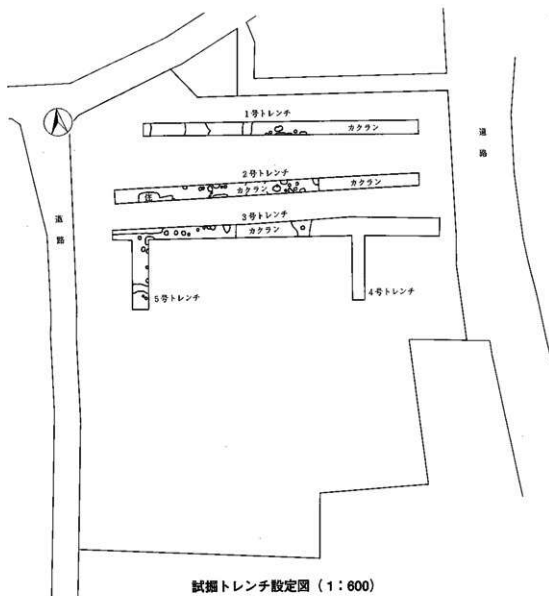
早期～後期の土器・石器、土師器・須恵器が多量に出土した。

この調査成果を受けて事業主体である坂城町福祉課と協議した結果、遺構の破壊が著しい東端部と西端部を除く圍舎建設予定地を記録保存のため発掘調査を実施することが決定した。

発掘調査は平成12年4月26日から6月13日に実施された。

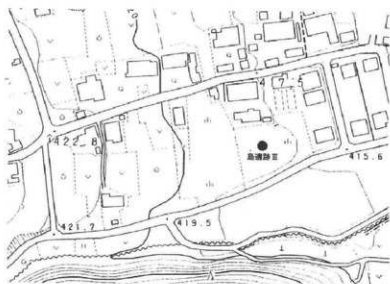


基本層序模式図



### 3 しま 島遺跡Ⅲ

所在地	坂城町大字上平宇島 1334-2、1339-2、 1342-2
事業主体	坂城町福祉課
事業名	介護予防整備事業 (坂城町介護予防施設建設事業)
調査期間	平成12年5月15日～ 平成12年5月16日
面積	1317㎡ (209㎡)
担当者	助川 朋広



試掘調査位置図(1:2500)

#### 遺跡の環境と経過

島遺跡Ⅲは、坂城町上平に所在し、標高416.5m内外を測る出浦沢川によって形成された扇状地の扇尖部に位置する。平成10年度に実施された隣接地での発掘調査によって、古代～中世にわたる複合遺跡であることが判明している。出土遺物には、古代の土器等のほか、巡方、丸柄といった帯金具の出土があり、単なる古代集落址では無い様相が看取された。

今回、坂城町福祉課による介護予防拠点施設建設計画が予定され、遺跡の破壊が余儀なくされたため、前回の調査と同様な遺跡のあり方が確認できるのか、遺構の分布はどうであるのか等確認する目的により試掘調査を実施することとなった。



トレンチ掘削状況(東より)



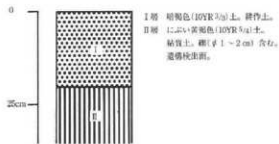
トレンチ完掘状況(西より)

#### 試掘結果

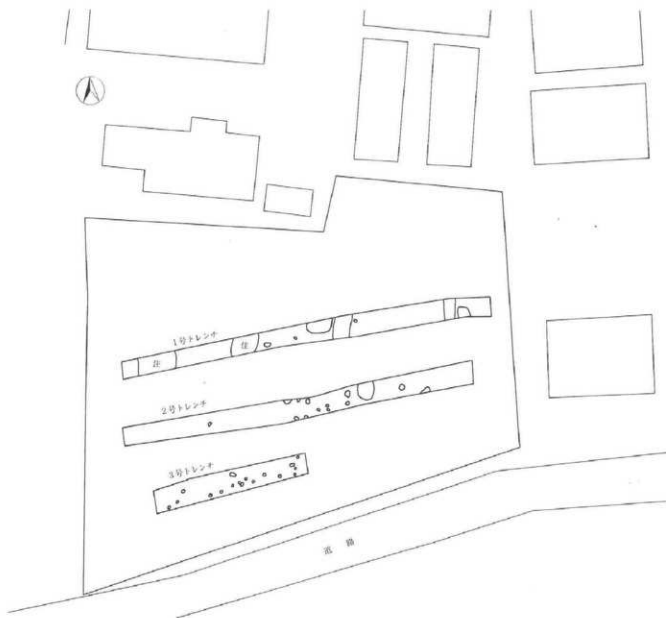
開発対象地に合計3本のトレンチを設定し、試掘調査をした結果、地表下15～30cmのぶい黄褐色土上面において古代の住居址2棟、土坑址1基、ピットが検出された。調査の結果、開発対象地は記録保存を前提とした発掘調査が行われることとなった。



1号トレンチ遺構検出状況



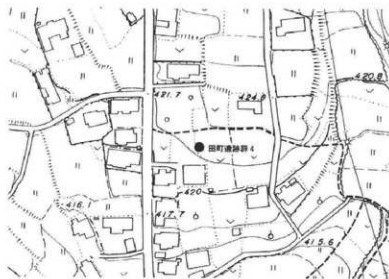
基本層序模式図



試掘トレンチ設定図 (1:400)

## 4 田町遺跡群 4

所在地 坂城町大字坂城字  
岡ノ原5797-2他  
事業主体 坂城町土地開発公社  
事業名 宅地造成事業  
調査期間 平成12年7月17日～  
平成12年7月18日  
面積 789㎡ (125㎡)  
担当者 助川 朋広



試掘調査位置図 (1 : 2500)

### 遺跡の環境と経過

田町遺跡群4は坂城町坂城に所在し、標高415m内外を測る入田川、日名沢川によって形成された扇状地の扇中部に所在する。坂城町遺跡分布図によると古墳～平安時代の散布地とされ、過去に数回試掘調査が実施されている。平成6・8年度は、住宅団地建設事業によって、今回の調査地から150m東に位置する場所を、平成10年度は宅地造成によって、西に40mの場所を試掘調査したが、平成6年度調査地点から遺物が検出された以外は、遺構・遺物の検出がなく、遺跡の状況は判然としない。

今回、坂城町土地開発公社による宅地造成事業が計画され、遺跡の破壊が余儀なくされたため、試掘調査を実施し、遺跡の状況を確認することとなった。



調査区近景(東より)

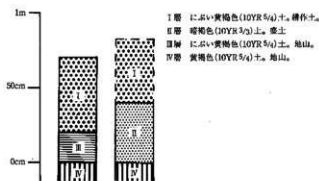


トレンチ完掘状況(東より)

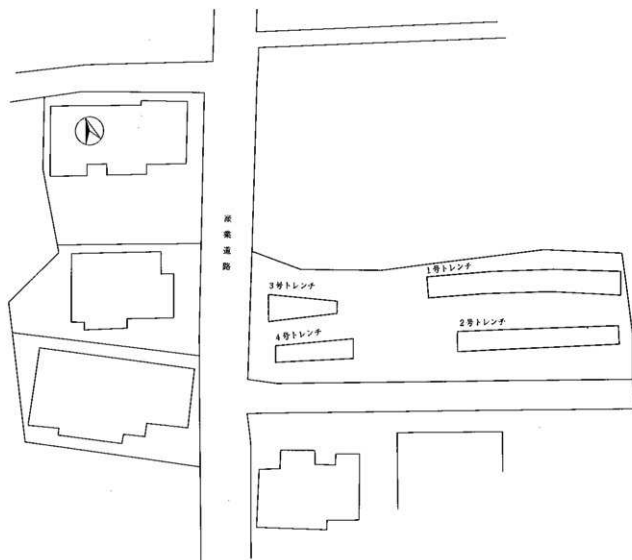
### 調査結果

対象地に合計4本の試掘トレンチを設定し、遺構の有無を確認した。確認面はIV層の黄褐色土で行い、遺構・遺物の検出は見られなかった。1・2号トレンチ付近は、II層の盛土下にIV層が検出された。これは、駐車場建設時に削平を受けた結果であって、通常の遺構確認面よりも下がっているところが多い。3・4号トレンチ

付近については、通常の基本層序が確認された。  
 今回の調査の結果、遺構・遺物は確認されなかつた。  
 本遺跡群内における状況の解明は、依然不明な部分が多く、今後の調査に委ねられたといえる。



基本層序模式図



試掘トレンチ設定図(1:500)



## 5 わだいら 和平 A・C 遺跡

所在地 坂城町大字坂城字和平  
4210-246他

事業主体 長野県長野地方事務所  
事業名 農林漁業用揮発油税財  
源身替農道整備事業  
(和平3期地区工事)

調査期間 平成12年9月4日～  
平成12年9月13日  
平成12年11月7日～  
平成12年11月13日

面積 11702㎡ (1611㎡)

担当者 助川 朋広  
齋藤 達也



試掘調査位置図 (1 : 2500)

### 遺跡の環境と経過

和平 A・C 遺跡は坂城町大字坂城に所在し、標高約1000mを測る高地性遺跡である。坂城町遺跡分布図によると、和平 A・C 遺跡は和平遺跡群の一部で、縄文時代～平安時代の集落址、散布地とされている。今回、長野県長野地方事務所より本遺跡内に農道建設事業が計画され、遺跡が破壊される恐れが生じたため、試掘調査を実施して遺跡の状況を確認することとなった。調査にあたり、平成12年度事業として建設を実施する部分を9月に実施し、次年度以降の予定地については、11月に試掘調査を行った。



7号トレンチ完掘状況(南西より)

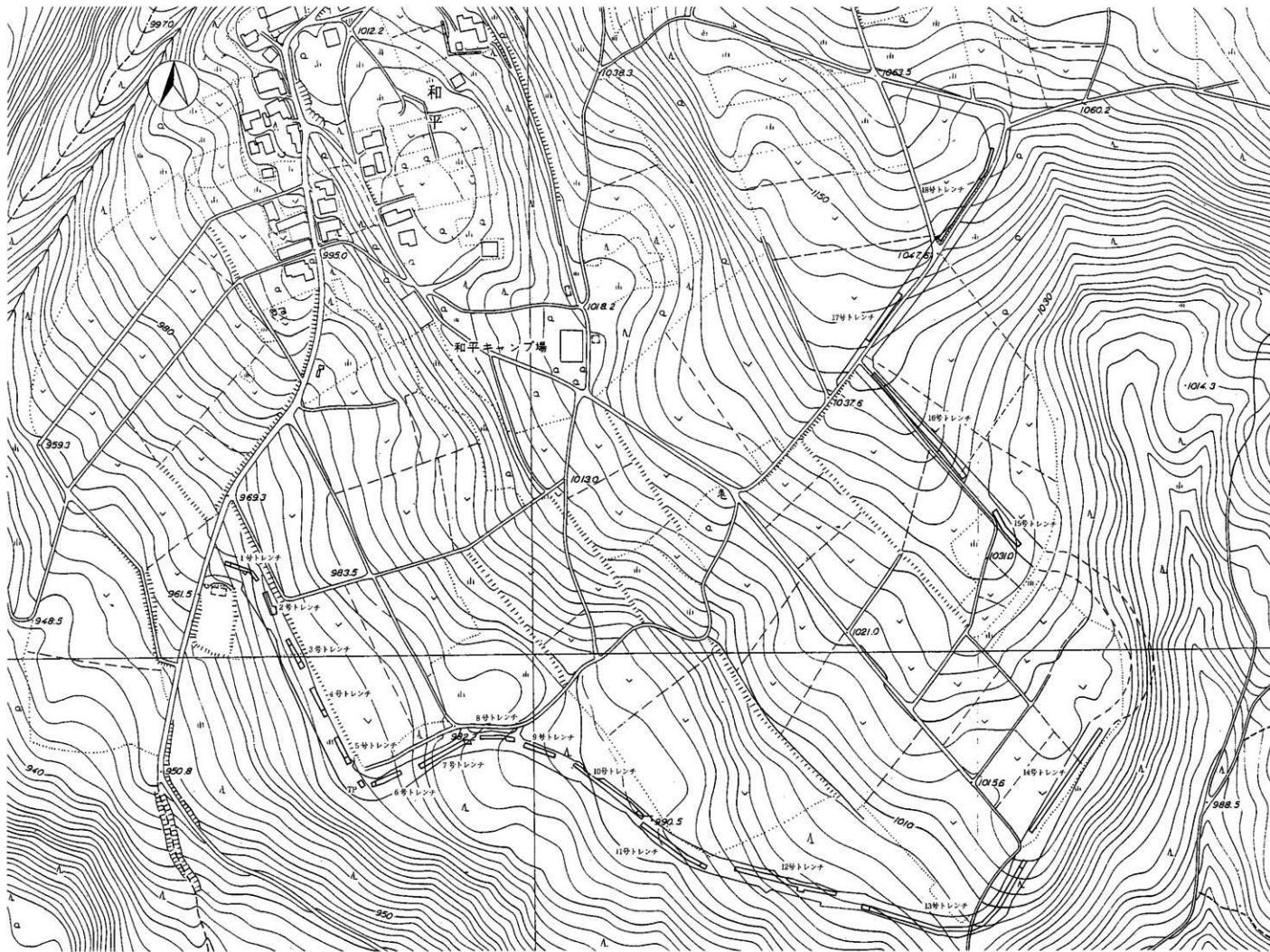


16号トレンチ完掘状況(北西より)

### 調査結果

建設予定地内に計20本のトレンチを設定し、遺構の状況を確認した。このうち1号～18号トレンチでは、傾斜地だったこともあり、遺物・遺構は検出されなかった。

調査区内で最高所の平坦地に設定した19号と20号トレンチでは、溝状遺構、土坑、ピットが



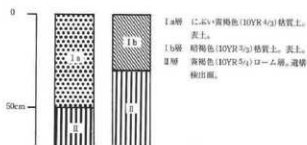
試掘トレンチ設定図1 (1~18号トレンチ 1:2000)

検出された。遺物は土器片が数点出土したが、いずれも細片で磨耗しているため時期は不明である。

調査後保護協議がなされ、遺構が検出された19・20号トレンチの周辺は、記録保存のための発掘調査を平成13年度に実施することとなった。



19号トレンチ遺構検出状況(東より)



基本層序模式図



試掘トレンチ設定図2 (19・20号トレンチ 1:1500)

## 6 豊饒堂遺跡1

所在地 坂城町大字中之条宇

豊饒堂1408-1

事業主体 株式会社タク技研

事業名 工場建設事業

調査期間 平成12年9月21日～

平成12年9月22日

面積 466㎡ (140m)

担当者 齋藤 達也



試掘調査位置図(1:2500)

### 遺跡の環境と経過

豊饒堂遺跡1は坂城町大字中之条に所在し、標高480m前後を測る。豊饒堂遺跡は坂城町遺跡分布図によると縄文～弥生時代の集落遺跡とされている。また、主要地方道坂城インター線建設に伴い、平成5年度に今回調査地点の南側において発掘調査が実施され、縄文時代早期の特殊遺構や弥生時代後半～古墳時代初頭、及び平安時代の竪穴住居址などが検出されている。

今回、株式会社タク技研が遺跡内に工場建設事業を計画したことにより、遺跡が破壊される恐れが生じたため事前に試掘調査を実施し、遺構の有無を確認することとなった。



1号トレンチ掘削状況(南より)

### 調査の結果

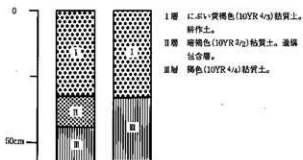
南北方向に2本、それらを繋ぐように東西方向に1本トレンチを設定し、遺構の有無を確認した。遺構は地表から15～35cm下で確認され、竪穴住居址2棟、土坑址3基、ピットが検出された。遺物は、少量ながら調査区全域で土器と石器が出土した。土器は細片の上、磨耗しており、時期は不明である。石器は黒曜石製の石鏃、剥片などが出土している。具体的な時期は不明であるが、縄文時代に位置づけられる石器であり、このことから、検出された遺構も縄文時代



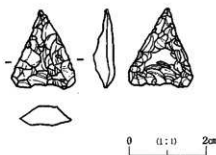
2号トレンチ完掘状況(北より)

に属する可能性が高いが、周辺遺跡の調査結果を考慮すると、古墳～平安時代の集落址の展開も予想される。

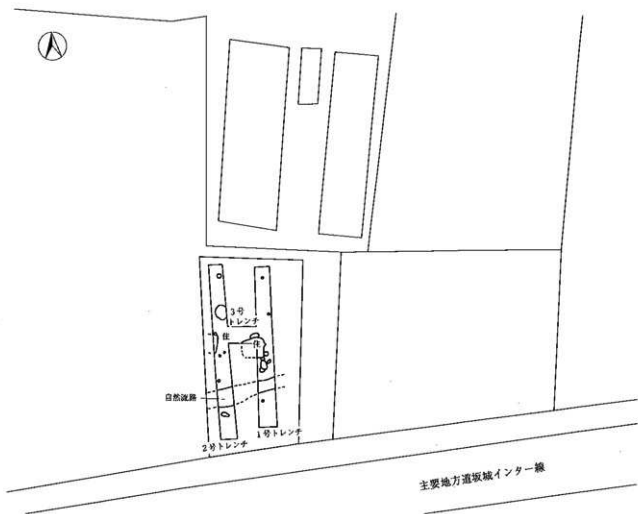
この調査結果を基に遺跡の保護措置が協議された。その結果、工場建設の際は掘削の深度が遺物包含層、及び遺構検出面まで及ぶことがないように十分な盛土が施されることが決まり、遺跡は保護されることとなった。



基本層序模式図



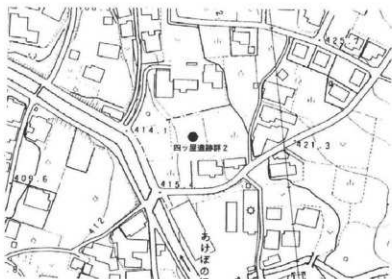
石鏃実測図(1:1)



試掘トレンチ設定図(1:600)

## 7 <sup>よつや</sup>四ツ屋遺跡群 2

所在地	坂城町大字坂城9090
事業主体	社会福祉法人坂城福祉会
事業名	福祉施設建設事業
調査期間	平成12年12月12日～ 平成12年12月13日
面積	2856㎡ (372㎡)
担当者	齋藤 達也



試掘調査位置図 (1 : 2500)

### 遺跡の環境と経過

四ツ屋遺跡群は坂城町大字坂城に位置し、御堂川と名沢川によって形成された扇状地の扇中央部に位置し、標高は今回調査地点において416m前後を測る。坂城町遺跡分布図によれば、四ツ屋遺跡群は縄文～平安時代の集落址とされているが、近隣では、平成10年度に宅地造成事業に伴い試掘調査が実施されているのみである。その調査では縄文時代の遺物包含層が確認されているが、遺構は検出されていない。そのため、遺跡の状況は不明な部分が多い。今回、社会福祉法人坂城福祉会より福祉施設の建設が計画され、遺跡の破壊が余儀なくされたため、試掘調査を実施して遺跡の状況を確認することとなった。



調査区全景(南より)

### 調査の結果

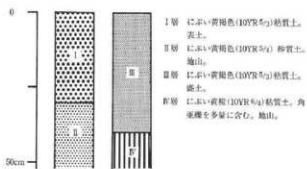
東西方向に3本、南北方向に2本トレンチを設定し、遺構の状況を確認した。地山と思われる、にぶい黄褐色砂礫層は地表面より10～50cm下で確認され、その面で遺構の検出を行ったが、遺構・遺物は検出されなかった。対象地は河川の影響を多分に受け易い立地であると思われる、集落の展開は、より北東方向の可能性が考えられる。



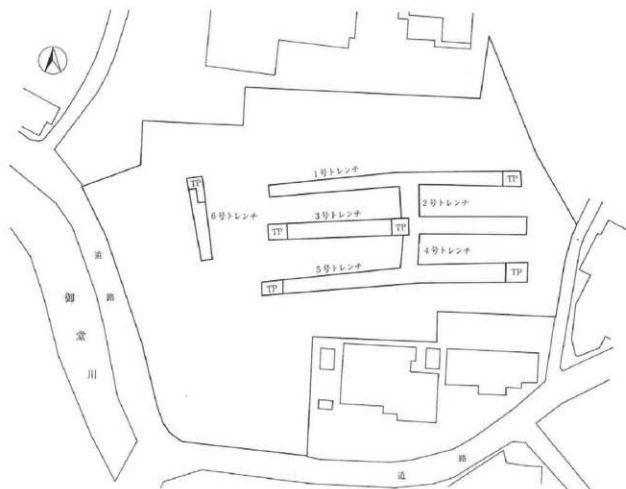
1号トレンチ完掘状況(東より)



2号トレンチ完掘状況(西より)



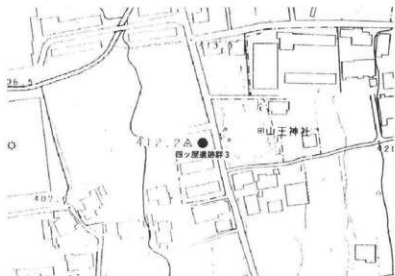
基本層序模式図



試掘トレンチ設定図(1:600)

## 8 よつや 四ツ屋遺跡群3

所在地	坂城町大字坂城6694-2
事業主体	坂城町総務課
事業名	コミュニティ消防センター建設事業
調査期間	平成12年12月14日～ 平成12年12月18日
面積	487㎡ (122㎡)
担当者	齋藤 達也



試掘調査位置図(1:2500)

### 遺跡の環境と経過

四ツ屋遺跡群は坂城町大字坂城に位置し、御堂川と名沢川によって形成された扇状地の扇尖部に位置する。坂城町遺跡分布図では縄文～平安時代の集落址に位置付けられ、近隣の調査例では、平成10年度の宅地造成事業に伴う試掘調査、今年度の福祉施設建設に伴う四ツ屋遺跡群2の試掘調査があるが、いずれの調査においても遺構は検出されず、不明な部分が多い遺跡である。

今回、本遺跡群内に坂城町総務課よりコミュニティ消防センターの建設が計画され遺跡の破壊が余儀なくされたため、事前に試掘調査を実施して遺跡の状況を把握することとなった。

今回の調査地点は、平成10年度に調査を実施した四ツ屋遺跡群から約450m北西、今年度実施の四ツ屋遺跡群2の調査地点から約750m北に位置し、標高は412mを測る。

### 調査の結果

東西方向に2本トレンチを設定して遺構の確認を行った。その結果、1号・2号トレンチで性格不明の遺構を確認した。この遺構は一連のものと思われ、トレンチの中央から緩やかに落ち込み、西に広がっていて、調査区外まで延び



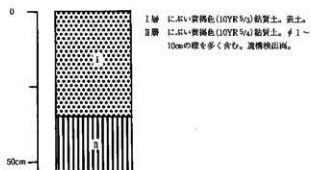
1号トレンチ完掘状況(東より)



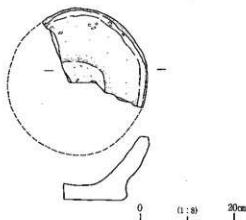
2号トレンチ完掘状況(東より)



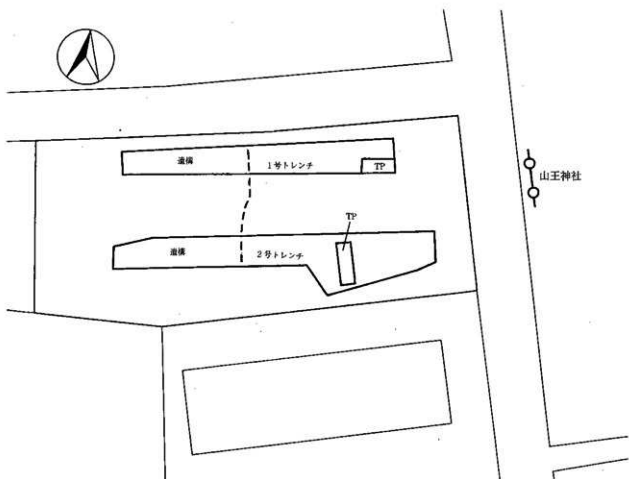
ていた。出土遺物には土師器数点と石鉢がある。いずれも具体的な時期は不明であるが、中世以降に位置付けられようか。今回検出された遺構は、先述のように出土遺物が乏しいこともあり、性格は不明であるが、調査区の東側には山王神社があり、その神社に関わる施設の遺構の可能性も考えられる。なお、今回の試掘調査によって遺構は検出されたわけであるが、建物建設予定地は遺構の検出されなかったところにあたるため、工事に際し遺跡の破壊はないと考えられる。検出された遺構については、埋め戻しにより、保護されているが、今後開発が計画された場合は、然るべき保護措置が必要である。



基本層序模式図



2号トレンチ出土石器実測図



試掘トレンチ設定図 (1:200)

## 9 西教寺跡地伝承地

所在地 坂城町大字網掛字越堂

1996ほか

事業主体 坂城町企画調整課

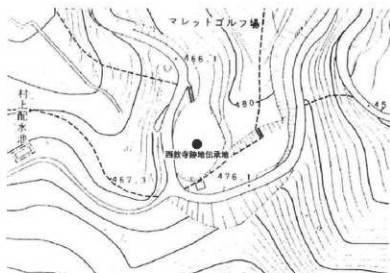
事業名 びんぐしの里公園拡充事業

調査期間 平成12年12月18日～

平成12年12月19日

面積 5000㎡ (196㎡)

担当者 齋藤 達也



試掘トレンチ設定図(1:2500)

### 遺跡の環境と経過

西教寺跡地伝承地は坂城町大字網掛、びんぐし山の中腹に位置し、標高は470mを測る。現在、西教寺は坂城町大字上五明に所在しているが、当初は大字網掛字越堂にあったとされ、真言宗実成坊と呼ばれていたが、鎌倉時代、それを記主禅師が西教寺に改めたとされている。西教寺には鎌倉時代末期の仏像とされる本造阿弥陀如来立像があり、町の文化財に指定されている。

今回、坂城町企画調整課よりびんぐしの里公園の拡充事業が計画され、遺跡が破壊される恐れが生じたため、試掘調査を実施して遺跡の状況を確認することとなった。



1号トレンチ完掘状況(東より)

### 調査の結果

南北方向に1本、東西方向に3本トレンチを設定し、遺構の確認を行った。調査区は盛土が施されていたため、明黄褐色を呈する地山面は地表より90～120cm下で検出された。遺構検出作業はこの面において行ったが、遺構は検出されなかった。遺物は播鉢片が1点出土しているが細片のため時期は不明である。

今回の調査では、西教寺の跡地であることを示す遺構・遺物は検出されなかった。しかし、

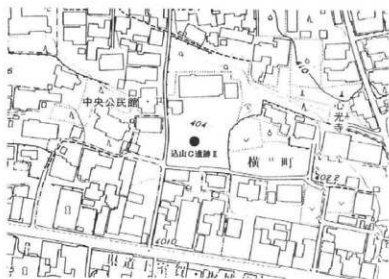


3号トレンチ完掘状況(東より)



## 10 込みやま 込山C遺跡Ⅱ

所在地	坂城町大字坂城字込山 6313-2ほか
事業主体	坂城町商工課
事業名	鉄の展示館建設事業
調査期間	平成12年12月21日～ 平成12年12月26日
面積	1051㎡ (200m)
担当者	齋藤 達也



試掘調査位置図 (1 : 2500)

### 遺跡の環境と経過

込山C遺跡Ⅱは坂城町大字坂城に所在し、日名沢川によって形成された扇状地上に位置する。坂城町遺跡分布図によれば込山C遺跡は縄文～平安時代の集落址とされている。

今回、坂城町商工課より鉄の展示館の建設が計画され、遺跡の破壊が懸念された。そこで試掘調査を実施し、遺跡の状況を確認することとなった。

今回の調査地点は、平成12年4月、坂城保育園建設に伴い実施された込山C遺跡試掘調査地点の南、約250mに位置し、標高404m前後を測る。(第Ⅱ章「1 込山C遺跡」参照)



1号トレンチ完掘状況(北より)

### 調査の結果

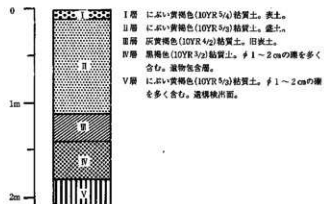
東西方向に並行して2本、それらのトレンチを繋ぐように南北方向に1本トレンチを設定して遺跡の状況を確認した。調査区は盛土されているため、遺構は現地表面から150～280cm下で確認され、調査区内の西にやや集中して見られた。調査区内はかつて工場が建設されていたため、工場の基礎などによって攪乱されていたが、堅穴住居址2棟、土坑3基などが確認された。遺物は弥生時代中期～後期の壺・甕、古墳時代中期～後期の土師器の高坏などが出土し



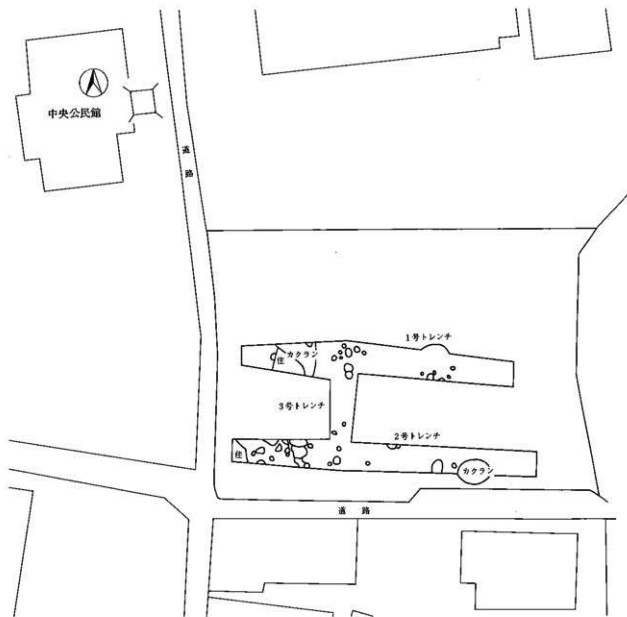
2号トレンチ遺構検出状況(北より)

た。各遺構の具体的な時期は不明であるが、事業計画地には弥生時代中期～古墳時代後期の集落址が存在していることが判明した。

この結果、遺跡の保護措置について協議が行われ、平成13年度に記録保存のため発掘調査が実施されることとなった。



基本層序模式図



試掘トレンチ設定図 (1:400)

## 報告書抄録

ふりがな	ちょうないいせきはつくつちょうさほうこくしょ
書名	町内遺跡発掘調査報告書 2000
副書名	平成12年度試掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	坂城町埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第18集
編著者名	助川 朋広・齋藤 達也
編集機関	坂城町教育委員会
所在地	〒389-0602 長野県埴科郡坂城町大字中之条2468 TEL.0268-82-2069
発行年月日	2001年3月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
北川原遺跡Ⅱ	埴科郡坂城町 大字中之条	1521		36°26'42"	138°11'53"	2000年4月6日～ 2000年4月8日	316	診療所建設
込山C遺跡	埴科郡坂城町 大字坂城	1521		36°27'46"	138°11'10"	2000年4月17日～ 2000年4月21日	367	保育園建設
島遺跡Ⅲ	埴科郡坂城町 大字上平	1521		36°26'37"	138°9'52"	2000年5月16日～ 2000年5月17日	209	介護予防施設 建設
田町遺跡群 4	埴科郡坂城町 大字坂城	1521		36°27'40"	138°11'26"	2000年7月17日～ 2000年7月18日	125	宅地造成
和平A・C 遺跡	埴科郡坂城町 大字坂城	1521		36°28'48"	138°13'3"	2000年9月4～13日 2000年11月7日～13日	1611	農道建設
豊饒堂遺跡 1	埴科郡坂城町 大字中之条	1521		36°26'39"	138°12'20"	2000年9月21日～ 2000年9月22日	140	工場建設
四ツ屋遺跡 群2	埴科郡坂城町 大字坂城	1521		36°26'58"	138°11'39"	2000年12月12日～ 2000年12月13日	372	福祉施設建設
四ツ屋遺跡 群3	埴科郡坂城町 大字坂城	1521		36°27'21"	138°11'28"	2000年12月14日～ 2000年12月18日	122	コミュニティ消防 センター建設
西教寺跡地 伝承地	埴科郡坂城町 大字網掛	1521		36°26'17"	138°10'12"	2000年12月18日～ 2000年12月19日	196	公園拡充
込山C遺跡Ⅱ	埴科郡坂城町 大字坂城	1521		36°27'36"	138°11'10"	2000年12月21日～ 2000年12月26日	200	展示館建設

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
北川原遺跡Ⅱ	集落址	古墳～平安	住居址	土師器・須恵器	
込山C遺跡	集落址	縄文～平安	住居址・敷石状遺構	縄文土器・石器・土師器・須恵器	
島遺跡Ⅲ	集落址	奈良～中世	住居址	土師器	
田町遺跡群4	散布地	古墳～平安	なし	なし	
和平A・C遺跡	集落址	縄文～平安	土坑址	土器(時期不明)	
豊饒堂遺跡1	集落址	縄文～平安	住居址・土坑址	土器(縄文?)・石器	
四ツ屋遺跡群2	散布地	縄文～平安	なし	なし	
四ツ屋遺跡群3	散布地	縄文～平安	特殊遺構	土器(時期不明)・石器	
西教寺跡地伝承地	寺院址	中世?	なし	土器(中世?)	
込山C遺跡Ⅱ	集落址	弥生～平安	住居址・土坑址	弥生土器・土師器	

## 坂城町埋蔵文化財調査報告書

	【開畝製鉄遺跡—第1次調査報告書】	1977
	【開畝製鉄遺跡—第2次調査報告書】	1978
	【東裏遺跡】	1983
	【中之条遺跡群 宮上遺跡Ⅱ】(概報)	1993
	【南条遺跡群 塚田遺跡】	1993
第1集	【南条遺跡群 東裏遺跡Ⅱ・青木下遺跡】	1994
第2集	【町内遺跡発掘調査報告書】	1994
第3集	【町内遺跡発掘調査報告書】	1995
第4集	【南条遺跡群 塚田遺跡Ⅱ】	1995
第5集	【豊饒堂遺跡・上町遺跡・寺浦遺跡・東町遺跡】	1996
第6集	【中之条遺跡群 寺浦遺跡Ⅱ】	1996
第7集	【中之条遺跡群 上町遺跡Ⅱ】	1996
第8集	【上五明条里水田址】	1996
第9集	【町内遺跡発掘調査報告書1995】	1996
第10集	【坂城町試掘調査・立会い調査報告書】	1996
第11集	【町内遺跡発掘調査報告書1996】	1997
第12集	【戊久保・町横尾遺跡】	1998
第13集	【込山Bほか 発掘調査報告書 1997】	1998
第14集	【町内遺跡発掘調査報告書1998】	1999
第15集	【町内遺跡発掘調査報告書1999】	2000
第16集	【開畝遺跡Ⅲ】	2000
第17集	【中之条遺跡群 北川原遺跡Ⅱ】	2001
第18集	【町内遺跡発掘調査報告書2000】(本書)	2001

---

発行日 2001年3月30日  
編集者 坂城町教育委員会  
〒389-0602 長野県埴科郡坂城町大字中之条2468  
TEL 0268 (82) 2069  
印刷者 信毎書籍印刷株式会社  
〒381-0037 長野県長野市西和田470  
TEL 026 (243) 2105

---

